

## 第3学年国語科学習指導案

日時 平成17年9月8日(木)5校時

場所 教室(3年3組)

児童 3年3組 男19名 女15名 計34名

指導者 佐藤 温美

### 1 単元名 「進んで話し合い、発表しよう」(光村図書3年上わかば)

教材名 「分類」ということ

### 2 単元設定の理由

#### (1) 児童観

子どもたちは、2年生までに、身近な話題に興味を持ち事柄の順序を考えながら話したり聞いたりする活動を行ってきた。さらに、3年生になり、1学期教材「道案内をしよう」では、事柄を順序立てて分かりやすく話すことの必要性を学んだ。また、日常活動の一言スピーチや村内めぐりの発表会で自分の身近な話題や見学して学んだことなどを一人ひとりが発表できるようになっている。

しかし、一言スピーチでは与えられたテーマについて多くの事柄をあげて話したり、それらを整理し順序立てて話したりすることができていない。また、発表する人を見て話を聞くことはできているが、大事なことを落とさずに聞くという力は不十分である。

事前テストの結果を見ると、「分類」という言葉の意味を理解している児童は34人中4人。また、実際に分類をさせてみたところ、理由をはっきりさせて分類できた児童は29.4%(10名)。分類はできても理由が不十分な児童が44.1%(15名)。はっきりとした分類ができない児童が、26.4%(9名)だった。

筋道を立てて話すことを苦手としている児童には、話す基となる理由を明確にさせることが必要である。発表する中身を整理し順序立て、分類した理由をはっきりさせて発表する力を育てていきたい。

#### (2) 教材観

本教材「『分類』ということ」は、大きく3つの学習活動からなる。一次の活動は、教科書の猫が描かれた挿絵を見て、猫をどのように分類したのかを話し合う思考活動を通して、それぞれの観点の相違点・共通点に気づき、お互いの考えを尊重しあうことをねらいとしている。二次は、分類に関わって自分で課題を決め、調べる活動である。教材の中では、調べ方のひとつとしてインタビューの実施を取り上げているが、インタビューをするにあたっては敬語などの言葉遣いやマナーなどの大切さに気づかせたい。また、情報を収集した後は、発表に向けて必要のある事柄を選択し整理できることをねらいとしている。三次は発表会に向けての活動である。調べた中身がよく分かるように、話す事柄を整理して話すことが大切になり、これまで学んだ発表の順序ということも合わせて、子どもたちに発表する力をつけさせることをねらいとしている。

以上のことから、子どもの生活のさまざまな場面で必要とされる作業である「分類」という思考活動を話し合い活動の導入として位置づけ、話す事柄を整理し順序立てて話す力を育てるには、本単元は有効であると考えられる。

#### (3) 指導観

「話すこと・聞くこと」の言語活動への関心、意欲、態度を高め、指導と評価の一体化を図り、本単元のねらいに迫るために、以下のことを指導の手立てとして位置づけた。

関心を喚起させるために

- ・カラーの拡大絵図を活用することによって、学習に対する期待感を高める。
- ・CDを活用し、実際の猫の分類の観点を聞くことにより、イメージを高め意欲を喚起する。

意欲を持続させるために

- ・調べ学習では、教師が具体例を多く用意し、個々の興味に応じて意欲的に材料集めができるようにする。
- ・発表会までの全体の流れを教室掲示することで発表までの見通しを持たせる。

態度を育成させるために

- ・発表の練習を3人組で行い、多様な助言ができるようにする。
- ・聞く人を2人とし、話すことに抵抗のある子にも話しやすい場を設定する。
- ・お互いの発表を記録したカードを相手に渡し、よりよい話し合いができるようになったことを

認め合い，成就感を持たせる。

指導と評価の一体化を図るために

- ・ 3人組による練習や相互評価を行い，次回の練習や発表会へ生かす。
- ・ 具体的な評価項目を設定し，自己評価させることで，次時の活動へ生かす。

### 3 単元の指導目標

- ・ 「分類」や，その観点の違いに興味を持ち，身の回りの事柄について調べ，発表して友だちと交流する。

### 4 単元の評価規準（B）

ア 国語への 関心・意欲・ 態度	関心	分類に興味を持ち，進んで分類しようとしている。
	意欲	自分の調べたいことを決めて，発表する材料を進んで探そうとしている。
	態度	友達の発表を聞いて，感想をまとめようとしている。
イ 話す・聞く 能力	構成要素	① お互いの考えの相違点や共通点について考えている。
		② 自分の考えが分かるように筋道を立てて話している。
		③ 話の中心に気をつけて聞いている。
ウ 読む力		資料「分類」を読み，内容を理解している。
エ 言語についての 知識・理解・技能		その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話している。 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話している。

### 5 単元の指導計画（話す・聞く 13時間 読む 1時間）

時間	主な学習活動	具体的評価規準（B）と【評価方法】	指導の手立て
一 次	第1時 猫の挿絵を見ていくつかの特徴に気づきグループに分ける。	アー 猫の分類に興味を持ち，分け方を考えようとしている。 【作業の観察】	・ 拡大絵図を提示することで共通理解を容易にし，集中力を高める。
	第2時 「話し合いで大切なこと」を学習し猫の分け方について実際に話し合う。（本時）	イー 友達の考えの相違点・共通点について考えながら聞いたり発表したりしている。 【グループでの評価活動の様子】 【自己評価カードの内容分析】	・ 話し合いの観点をCDと紙板書を利用して確認させ，話し合いの中で「分類」することの意味を考えさせる。
	第3時 グループで話し合ったことをまとめて発表し，グループでの話し合いを振り返る。	イー それぞれのグループでまとめた意見を聞き，自分の考えを深めようとしている。 【自己評価カードの内容分析】	・ 相違点を聞くことにポイントを置き，多様な分類の仕方があることに気づかせる。
	第4時 資料「分類」を読み，分類することの意味と，いろいろな分類の仕方があることを知る。	ウー 教科書を読んで，大事だと思ったところや初めて知ったこと，「分類」とはどのようなことかをノートに書いている。【ノートの内容分析】	・ 大事だと思うところに線を引いたり印をつけたりしながら読ませる。
	第5時 「分類」について想起し再度猫の分類を見直しグループで話し合う。	イー 自分の分類を見直し，話し合いをすることで，自分の考えを深めている。【話し合いや発言観察】 【ノートの内容分析】	・ 絵図や表を利用しながら新たな視点や複雑な視点についても考えさせる。
二 次	第6時 調べたいことをいくつか考え，インタビューの仕方を知る。	アー 調べたいテーマとその調査方法を進んで考えようとしている。 【発言・ワークシートの記述】	・ テーマの探し方を教え決まらない子どもには支援する。
	第7時 調査計画を立て発表までの見通しを立てる。	アー ワークシートを利用して進んで計画を立てようとしている。 【ワークシートの記述】	・ 机間指導で一人ひとりの計画に無理がないか確認する。
	第8・9時 発表の材料を集める方法 ・ 図書室の本 ・ インタビュー 等	アー 発表する材料を進んで探そうとしている。 【活動の観察】	・ 活動場所を図書室にし一人ひとりに対応する ・ 校外で調べる子には教師も一緒に予定を立てる。

二 次	第 10 時	観点を決め、調べたことをまとめる。	アー ワークシートに調べたことをまとめようとしている。 【ワークシートの記述】	・調べた内容から必要のある事柄を選ばせ、自分が理解できる言葉でまとめさせる。
	第 11 時	発表内容の組み立てを考える。	アー 話す事柄を整理し、順序を考えて発表メモを書こうとしている。 【ワークシートの記述】	・CDと紙板書で発表の流れを確認させ、ワークシートに作業させる
三 次	第 12 時	3人組で発表の練習をする。	イー メモを見ながら話す事柄を整理し順序立てて話している。 【発表練習の様子】 【相互評価・自己評価カードの内容分析】	・3人組で聞き合い、お互いによさを認め合わせることで、発表本番への自信を持たせる。
	第 13 ・ 14 時	「分類」発表会を聞き学習のまとめをする。	アー 一人ひとりが友達の発表の審査員となり、よいところを見つけ、感想を書こうとしている。 【審査カード(相互評価)の記述】 イー 大事なことが相手によく聞き取れるように、声の大きさや話す速さに気をつけて発表している。 【相互評価・自己評価カードの内容分析】	・一人ひとりの発表は最後までしっかり聞き、その後で審査カードに記入させる。

## 6 本時の指導

### (1) ねらい

互いの分け方の相違点や共通点を考えながら話し合うことができる。

### (2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導上の工夫と評価<教材・教具>
7 分 導 入	1 前時までの学習を振り返り、話すこと・聞くことのポイントを確認する。 2 学習課題をつかむ。 同じところやちがうところに気を付けながら、グループの分け方について話し合おう。 ・目的意識：互いの考えの相違点や共通点に気付く。 ・相手意識：グループの友達。	・前時のワークシートで、各自がどのような特徴に基づいて分けたのか想起させ、本時ではお互いに考えを交流し合うという見通しを持たせる。<ワークシート> ・自分が考えた分け方のほかにも、いろいろな分け方があることを理解し、相違点や共通点に気を付けながらグループで話し合う学習であることを確認する。
展 開	3 CDを聞き、話し合いの流れをつかむとともに話し合いで大切なことを確認する。	・CDを活用することにより、話し合いのイメージを持たせ、良い話し合いの仕方について気付かせる。<CD><拡大絵図> ・発表するとき参考になるような話型を確認する。<拡大絵図>
30 分	4 3人組でグループの分け方について、話し合う。 ・1回目の話し合いをする。 ・グループで相互評価する。 ・よい話し合いができた友だちを紹介する。 ・2回目の話し合いをする。	・3人1組で話し合わせる。 ・自分の考えと同じ時は白のカードを、違うときは赤いカードを提示しながら友達の発表を聞かせる。<カード> 評価イー ・話し合いが終わるごとにグループで相互評価を行う。<評価カード> ・1回目の話し合いの相互評価をもとに、話し

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで相互評価する。</li> <li>・3回目の話し合いをする。</li> <li>・グループで相互評価する。</li> </ul>	合いのポイントに沿って、友達の良かったところを発表させる。
まとめ	5 学習を振り返る。 6 次時の学習内容を確認する。	・各自の自己評価をさせる。 <評価カード> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">評価イー</div>
8分		

(3) 評価と支援

【観点】	【具体の評価規準】	【評価に応じた支援】
イー	A 友達の考えの相違点・共通点について考えながら聞いたり発表したりして、さらに友達の発表をもとに新しい分類の仕方に気付いている。 B 友達の考えの相違点・共通点について考えながら聞いたり発表したりしている。	A 本時のねらいに沿って、よいところを全体に紹介し、称賛する。 C 相手がどんな分類について発表しているか確認する。

(4) 板書計画

話し合いの例

拡大絵図

「分類」ということ  
めあて

話し合いで大切なこと  
自分と同じところ、ちがうところに注意して聞く。  
友だちの意見で分からないところは、しつ問する。  
それぞれの考え方を、みとめあう。

同じところやちがうところに気をつけながら、グループの分け方について話し合おう。